7.5

IBM WebSphere MQ GUI ウィザードのヘルプ

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、23 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、 IBM® WebSphere® MQ バージョン 7 リリース 5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様が IBM に情報を送信する場合、お客様は IBM に対し、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で情報を使用または配布する非独占的な権利を付与します。

© Copyright International Business Machines Corporation 2007 年, 2024.

目次

MQ GUI ウィザードのヘルプ.....5
ポストカード・サンプル.....5
ポストカード: サインオン.....6
ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換.....7
ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換.....7
ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換.....8
ポストカード: 処理方法.....9
WebSphere MQ のインストール.....10
WebSphere MQ 準備ウィザード.....10
デフォルト構成ウィザード.....16
IBM WebSphere MQ for Windows のアンインストールまたは変更.....18

特記事項.....23
プログラミング・インターフェース情報.....24
商標.....24

ポストカード・サンプル

ポストカードのサンプル・アプリケーションを導入します。

ポストカードを送信すると、ご使用のコンピューター (および、必要であれば他の接続されたコンピューター) への IBM WebSphere MQ のインストールを検証したり、メッセージングの手ほどきを得たりすることができます。

ここでは、同一または異なるコンピューターにおいてポストカード・ サンプル・インスタンスを 2 つ開始し、その間でメッセージを交換します。

始動中

「 WebSphere MQ Explorer **コンテンツ** へようこそ」ビュー・ページで 「**Postcard の起動**」 を選択して、Postcard アプリケーションを開始します。 ポストカード・サンプルを開始すると、サインオンとニックネームの入力を求められます。 (サインオン・ダイアログで使用できる 拡張オプションの詳細については、サインオン を参照してください。)

ポストカードを送る

「Nick」という ニックネームでサインオンを行ったとして、別のニックネーム「Tim」へポストカードを 送ります。 次のリンクをクリックして、以下のシナリオで Tim にポストカードを送る 方法を参照してください。

- Tim がこのコンピューターの同一のキュー・マネージャー上にいる場合
- Tim がこのコンピューターまたは別のコンピューターの別のキュー・マネージャー上にいる場合

MQ 検証

ポストカードの正常な着信により、ご使用の IBM WebSphere MQ インストール環境が正常に動作していることがわかります。

ポストカード・サンプル

ポストカードのサンプル・アプリケーションを導入します。

ポストカードを送信すると、ご使用のコンピューター (および、必要であれば他の接続されたコンピューター) への IBM WebSphere MQ のインストールを検証したり、メッセージングの手ほどきを得たりすることができます。

ここでは、同一または異なるコンピューターにおいてポストカード・ サンプル・インスタンスを 2 つ開始し、その間でメッセージを交換します。

始動中

「 WebSphere MQ Explorer **コンテンツ** へようこそ」ビュー・ページで 「**Postcard の起動**」 を選択して、Postcard アプリケーションを開始します。 ポストカード・サンプルを開始すると、サインオンとニックネームの入力を求められます。 (サインオン・ダイアログで使用できる 拡張オプションの詳細については、サインオン を参照してください。)

ポストカードを送る

「Nick」という ニックネームでサインオンを行ったとして、別のニックネーム「Tim」へポストカードを 送ります。 次のリンクをクリックして、以下のシナリオで Tim にポストカードを送る 方法を参照してください。

- Tim がこのコンピューターの同一のキュー・マネージャー上にいる場合

© Copyright IBM Corp. 2007 年, 2024

- Tim がこのコンピューターまたは別のコンピューターの別のキュー・マネージャー上にいる場合

MQ 検証

ポストカードの正常な着信により、ご使用の IBM WebSphere MQ インストール環境が正常に動作していることがわかります。

ポストカード: サインオン

ここでは、ポストカード・サンプルへのサインオンの方法を説明します。

ポストカードのサンプル・アプリケーションは、デフォルト構成キュー・マネージャーと自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

デフォルト構成キュー・マネージャーを使用する場合

こちらは、ポストカード・サンプルを最も簡単に使う方法であり、また複数のコンピューター間でポストカードを送る最もシンプルな方法です。 2 台以上のコンピューター間でポストカード・サンプルを使用する場合、すべてのコンピューター上でデフォルト構成のウィザードが実行されたことを確認してください。ポストカード・サンプルを開始した際コンピューター上にキュー・マネージャーがない場合、デフォルト構成ウィザードを起動するか、それともポストカードを閉じるかを尋ねられます。

デフォルト構成ウィザードでクラスターを作成する場合、コンピューターのうちの 1 つがクラスターのリポジトリーをホストし、その他のすべてのコンピューターがその最初のコンピューターを自分のリポジトリーとして使用することで、すべてのコンピューターが同一のクラスター内に入っていることを確認してください。

デフォルト構成キュー・マネージャーを使ってポストカード・サンプルを実行する

1. 「**ニックネーム**」フィールドに、ポストカードの送受信に使用するニックネームをタイプします。 名前の選択に制限はありません。
2. 「OK」をクリックして先に進みます。 ポストカード・サンプルが開きます。

ポストカード・サンプルが、デフォルト構成キュー・マネージャーを使用してメッセージを交換します。

他のキュー・マネージャーを使用する場合

ご使用のコンピューターで定義済みのキュー・マネージャーがある場合、ポストカード・サンプルが使用するキュー・マネージャーとしてそれを選択することができます。 1 台または複数のコンピューター上の複数のキュー・マネージャー間でポストカードを送る場合、以下の条件を確認してください。

- 対象のキュー・マネージャーは同一のクラスター内にある。
- 対象キュー・マネージャー間に明示接続が作成されている。

異なるキュー・マネージャーを使ってポストカード・サンプルを実行する

1. 「**ニックネーム**」フィールドに、ポストカードの送受信に使用するニックネームをタイプします。 名前の選択に制限はありません。
2. 「**拡張 (Advanced)**」 チェック・ボックスを選択します。 ダイアログに追加のオプションが表示されます。
3. 拡張ダイアログで「**メールボックスのキュー・マネージャーを選択 (Choose queue manager as mailbox)**」をクリックし、リストからキュー・マネージャーを選択します。
4. 「**OK**」をクリックして先に進みます。

`postcard` というローカル・キューが選択したキュー・マネージャーに自動的に生成されます。 すべてのポストカードが、同一または異なるコンピューター上で、メッセージの送信にこのキュー・マネージャー名を使用することを確認してください。 ポストカード・サンプルは、選択されたキュー・マネージャーを使用してメッセージを交換します。

関連情報

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

1 つのキュー・マネージャー上で、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始してその間でメッセージを送信します。

ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを別々のキュー・マネージャー上で開始し、その間でメッセージを送信します。

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換
ここでは、異なる MQ バージョンおよびオペレーティング・システムにおいて、メッセージ交換が可能なポストカード・インスタンスの一覧を表示します。

ポストカード: 処理方法
ここでは、ポストカード・サンプルの内部処理について説明します。

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

1 つのキュー・マネージャー上で、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始してその間でメッセージを送信します。

ポストカードは「Nick」のニックネームで既に開始されています。このコンピューター上の 2 番目のニックネームにポストカードを送信する場合は、以下のステップに従ってください。

1. Nick のポストカードを画面の一方に寄せ、2 番目のポストカードを開始します。
2. 2 番目のポストカードのサインオン・ダイアログで、2 番目のニックネーム「Tim」を入力します。
3. Nick のポストカードの「**宛先 (To)**」フィールドに、2 番目のニックネーム Tim を入力します。 「場所 (On)」フィールドは空のままであればポストカードによって書き込まれます。また、メッセージ・ボックスの下の「**On:**」の後ろにあるキュー・マネージャー名をタイプすることもできます。
4. 「**メッセージ (Message)**」ボックスをクリックしてメッセージを入力した後、「**送信 (Send)**」をクリックします。
5. Tim のポストカードを見てメッセージが届いていることを確認し、メッセージをダブルクリックしてポストカード自体を参照します。
6. 今度は Tim を使って Nick にポストカードを返信します。 これは、Tim のリストに届いたメッセージを選択し、「**返信 (Reply)**」をクリックすることで簡単にできます。

関連情報

ポストカード: サインオン
ここでは、ポストカード・サンプルへのサインオンの方法を説明します。

ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを別々のキュー・マネージャー上で開始し、その間でメッセージを送信します。

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換
ここでは、異なる MQ バージョンおよびオペレーティング・システムにおいて、メッセージ交換が可能なポストカード・インスタンスの一覧を表示します。

ポストカード: 処理方法
ここでは、ポストカード・サンプルの内部処理について説明します。

ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを別々のキュー・マネージャー上で開始し、その間でメッセージを送信します。

ポストカードは「Nick」のニックネームで既に開始されており、このコンピューターか別のコンピューター上に 2 番目のキュー・マネージャーが存在します。2 つのキュー・マネージャーは同じクラスター上に存在するか、または 2 つのキュー・マネージャー間で通信するチャネルが構成されています。 2 番目のキュー・マネージャー上の別のニックネームにポストカードを送信する場合、以下のステップに従う必要があります。

1. Nick のポストカードを画面の一方に寄せ、2 番目のポストカードを開始します。
2. 2 番目のポストカードのサインオン・ダイアログで、2 番目のニックネーム「Tim」を入力します。

3. Nick のコンピューター上のポストカードの「**宛先 (To)**」フィールドに 2 番目のニックネーム (Tim) を入力し、「**場所 (On)**」フィールドに Tim がいる 2 番目のポストカードのキュー・マネージャーの名前を入力します。 この名前がわからない場合は、Tim のコンピューターのポストカード内で、メッセージ・ボックスの下の「**On:**」の後ろを見てください。また、双方のキューマネージャーがデフォルト構成クラスター内にある場合は、代わりに Tim のコンピューターの TCP/IP 短縮名をタイプすることで、デフォルト構成ウィザードと同様の方法でポストカードにキュー・マネージャー名が組み込まれます。
4. Nick のポストカードでメッセージをタイプして「**送信 (Send)**」をクリックします。
5. Tim のポストカードを見てメッセージが届いていることを確認し、メッセージをダブルクリックして表示します。
6. 今度は Tim のコンピューターから Nick に返信します。 これは、Tim のリストに届いたメッセージを選択し、「**返信 (Reply)**」をクリックすることで簡単にできます。

関連情報

ポストカード: サインオン
ここでは、ポストカード・サンプルへのサインオンの方法を説明します。

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
1 つのキュー・マネージャー上で、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始してその間でメッセージを送信します。

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換
ここでは、異なる MQ バージョンおよびオペレーティング・システムにおいて、メッセージ交換が可能なポストカード・インスタンスの一覧を表示します。

ポストカード: 処理方法
ここでは、ポストカード・サンプルの内部処理について説明します。

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換

ここでは、異なる MQ バージョンおよびオペレーティング・システムにおいて、メッセージ交換が可能なポストカード・インスタンスの一覧を表示します。

以下にある、すべての異なるタイプのポストカード・サンプル間でメッセージを交換できます。

- Windows 上の Websphere MQ ポストカード・サンプル
- Linux® または UNIX などの他のオペレーティング・システム上の Websphere MQ におけるポストカード・サンプル
- Windows 上の旧バージョン Websphere MQ の MQI ポストカード・サンプル
- Windows 上の旧バージョン Websphere MQ の JMS ポストカード・サンプル
- 他のオペレーティング・システム (Linux や UNIX など) 上の以前のバージョンの Websphere MQ における JMS ポストカード・サンプル
- MQSeries® ポストカード・サンプル (旧バージョンの MQSeries for Windows の場合)。ただし、JMS ポストカード・サンプルからメッセージを受信することはできません。 その他のポストカード・サンプルからのメッセージ受信およびメッセージ送信は可能です。
- パーベイシブ・デバイス上の MQ Everyplace® Postcard on WebSphere MQ Everyplace 。 ただし、キュー・マネージャー間の接続が明示的に設定されている必要があります。 詳細については、WebSphere MQ Everyplace 製品の資料を参照してください。

関連情報

ポストカード: サインオン
ここでは、ポストカード・サンプルへのサインオンの方法を説明します。

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
1 つのキュー・マネージャー上で、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始してその間でメッセージを送信します。

ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを別々のキュー・マネージャー上で開始し、その間でメッセージを送信します。

ポストカード: 処理方法
ここでは、ポストカード・サンプルの内部処理について説明します。

ポストカード: 処理方法

ここでは、ポストカード・サンプルの内部処理について説明します。

以下の表は、ポストカード・サンプルが実施する機能およびそのコーディング実施方法の一覧です。

ポストカードの機能	ポストカードのコーディング
開始。 ポストカードは開始されると、このコンピューターにどんなキュー・マネージャーがあるかをチェックし、それに応じてサインオン・ダイアログの初期設定を行います (キュー・マネージャーが全くない場合、デフォルト構成作成のプロンプトが出されます)。	ポストカードは、デフォルトのキュー・マネージャー (ご使用のコンピューターの TCP/IP 変換名になっています) に接続するために MQI 呼び出し MQCONN を使用します。
メッセージの受信。 Postcard は、実行中は常に、他の Postcard からの着信メッセージについて `postcard` というキューをポーリングします。 `postcard` というキューがない場合、ポストカードはその作成を行います。	ポストカードは、このポストカードのニックネームが設定されているメッセージ記述子 (**MQMD**) 内の相関 *ID* (**CorrelId** フィールド) により、キューにおいて MQOPEN 呼び出しによるポーリングを一度行い、その後定期的に MQGET 呼び出しを行います。 したがって、一致するニックネームを持つメッセージのみが読み取られます。 その後、メッセージ・データの単語がポストカード・ウィンドウに表示されます。
メッセージの送信。	「**On:**」フィールドにコンピューター名を入力しない場合、ポストカードは受信者が送信者と同じキュー・マネージャー上にいるとみなします。「**On:**」フィールドにコンピューター名を入力すると、ポストカードはローカルのメールボックスがデフォルト構成のキュー・マネージャーかどうかをチェックし、そうであれば、デフォルト構成ウィザードがキュー・マネージャーを命名する際に使用するものと同じ変換ルールによって、そのコンピューター名をキュー・マネージャー名に変換します。デフォルト構成のものでない場合は、ポストカードは入力された名前をキュー・マネージャー名として使用します。 どちらの場合も、ポストカードは MQCONN を行って接続します。 その後、ポストカードは、オブジェクト記述子 (**MQOD**) 内で MQOPEN を行い、*ObjectName* (キュー) を `postcard` に、*ObjectQMgrName* をキュー・マネージャー名に設定します。 最後に、使用したニックネームとタイプした単語から WebSphere MQ メッセージを作成し、キューにおいて MQPUT を行います。

ポストカードの機能	ポストカードのコーディング
ポストカードの到達方法。 このコンピューター上のポストカードの他のインスタンスが同一のキューマネージャーとキューを使用している場合、メッセージは 1 つのキューのみから出し入れされます。 これは、このコンピューターにインストールされている WebSphere MQ コードが正しく構成され、実行されていることを検証します。 別のキュー・マネージャーへの送信を行うポストカードの場合、そのキュー・マネージャーへの接続が存在しなければなりません。 この接続は双方のキュー・マネージャーが同一クラスターのメンバーであるか、自分で明示的に接続を作成したか、いずれかによって存在します。 ポストカードは、したがって、キュー・マネージャーが接続可能であるとみなして接続し、キューを開いてメッセージを置き、メッセージをその宛先に渡すという作業のすべてを WebSphere MQ クラスター・コードに残します。 つまり、ポストカードはメッセージを置くためにたった一片のコードしか使用せず、メッセージが別のコンピューターに送られるかどうかについて知る必要がないのです。	ポストカードでは、MQOPEN が呼び出されると、クラスター・コードはリポジトリーをチェックして、他のキュー・マネージャーの検索およびキューの有無のチェックを行い、ある場合は、MQOPEN から OK の戻りコードを返します。 MQPUT が呼び出されると、クラスター・コードは他のキュー・マネージャーにチャネルを開き (必要に応じて作成)、メッセージを送ります。 このチャネルは、クラスター最適化コードがこれを必要としない場合、後に破棄されることがあります。 キュー・マネージャー同士が異なるコンピューター上にある場合は、宛先コンピューターへのメッセージ送信はクラスター・コードによって取り扱われます。
配信不能メッセージの整理。	「John」にポストカードを送りながらも「John」というニックネームでポストカードを実行したことがなければ、そのメッセージはキュー上に永久に置かれることになります。 そうしないために、ポストカードでは、メッセージ記述子 (**MQMD**) のメッセージ存続時間 *(Message Lifetime)* (**Expiry**) フィールドを 48 時間に設定しています。 この時間が過ぎると、メッセージはそれがどこにあろうと、たとえ送信中でも、破棄されます。

関連情報

ポストカード: サインオン
ここでは、ポストカード・サンプルへのサインオンの方法を説明します。

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
1 つのキュー・マネージャー上で、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始してその間でメッセージを送信します。

ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換
2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを別々のキュー・マネージャー上で開始し、その間でメッセージを送信します。

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換
ここでは、異なる MQ バージョンおよびオペレーティング・システムにおいて、メッセージ交換が可能なポストカード・インスタンスの一覧を表示します。

WebSphere MQ のインストール

WebSphere MQ へようこそ

次のリンクから、WebSphere MQ をインストールするときに必要となる可能性がある情報を参照することができます。

WebSphere MQ 準備ウィザード

適切な権限を持つユーザー・アカウントで WebSphere MQ を構成します。 次に、このウィザードでは、最初に起動する必要がある任意またはすべての WebSphere MQ プログラム (WebSphere MQ エクスプローラーおよびリリース情報) の選択を求めるプロンプトが出されます。

ユーザー・アカウントが適切ではないことが検出された場合は、ウィザードに付属のヘルプを参照するか、またはシステム管理者に適切なアカウントを作成してもらう方法についてのヘルプを参照してください。

IBM WebSphere MQ 準備ウィザード (AMQMJPSE.EXE) に以下のパラメーターを指定できます。

表 *1. WebSphere MQ* 準備ウィザードの始動パラメーター

パラメーター	名前	説明	パラメーターが指定されていない場合のデフォルト・アクション
-l < ファイル>	ログ・ファイルの作成	IBM WebSphere MQ 準備ウィザードは、プログラムのアクションと結果をログ・ファイルに追加します。 このパラメーターは、そのログに使用するファイル名を指定します。 パスが指定されていない場合、IBM WebSphere MQ Data ディレクトリーが想定されます。 ファイル名が指定されていない場合、AMQMJPSE.LOG が想定されます。	IBM WebSphere MQ Data ディレクトリーのログ・ファイル AMQMJPSE.LOG に追加します。
-r	MQSeriesService ユーザー・アカウントのリセット	IBM WebSphere MQ 準備ウィザードは、最初に実行されるときに、特定の設定値およびアクセス権を持つローカル・ユーザー・アカウント MUSR_MQADMIN を作成します。 MQSeriesService コンポーネントは、このアカウントで実行されるように構成されます。 LAN 構成によっては、MQSeriesService コンポーネントが代わりにドメイン・ユーザー・アカウントで実行されるようにウィザードによって構成し直される場合があります。 このパラメーターが指定されると、すべてのデフォルトの設定と許可を持つローカル・ユーザー・アカウント MUSR_MQADMIN が再作成されます。 MQSeriesService コンポーネントは、このアカウントで実行されるように構成されます。	ユーザー・アカウントはリセットされません。
-s	サイレント・インストール・モード	サイレントで処理されます。 何も表示されず、ユーザー入力も行われません。	サイレント・モードではありません。
-p < ファイル>	ファイルからのユーザー・パラメーター	パラメーター・ファイルにあるパラメーターをロードして使用します。 パスが指定されていない場合、IBM WebSphere MQ Data ディレクトリーが想定されます。 ファイル名が指定されていない場合、AMQMJPSE.INI が想定されます。 以下のスタンザがロードされます。 [Services] [SSLMigration]	サイレント・モードのとき、パラメーター・ファイル AMQMJPSE.INI は IBM WebSphere MQ Data ディレクトリーからロードされます。 サイレント・モードではないとき、パラメーター・ファイルは使用されません。

表 *1. WebSphere MQ* 準備ウィザードの始動パラメーター *(*続き*)*			
パラメーター	**名前**	**説明**	**パラメーターが指定されていない場合のデフォルト・アクション**
-m < ファイル>	Microsoft System Management Server (SMS) 状況 .MIF ファイルを生成します。	IBM WebSphere MQ 準備ウィザードが閉じるときに、指定した名前でステータス .MIF ファイルを生成します。 パスが指定されていない場合、Data ディレクトリーが想定されます。 ファイル名が指定されていない場合、AMQMJPSE.MIF が想定されます。 ファイル ISMIF32.DLL (SMS の一部としてインストールされた) はパスに含まれている必要があります。 ファイルの「InstallStatus」フィールドには、「Success」または「Failed」のいずれかが含まれます。	.MIF ファイルは作成されません。

WebSphere MQ 準備ウィザードでの WebSphere MQ アカウントの構成

手順

1. WebSphere MQ は実行中に、許可ユーザーのみがキュー・マネージャーまたはキューにアクセスできることを検査する必要があります。 ユーザーがそのようなアクセスを試みると、WebSphere MQ は自分自身のローカル・アカウントを使用してユーザーに関する情報を照会します。
2. Windows 2000 Server、Windows 2003 Server、またはこれ以降を実行するドメイン・コントローラーは、ドメイン上で定義されたユーザーにキュー・マネージャーまたはキューにアクセスする権限があるかどうかを WebSphere MQ が検査するときに、ローカル・アカウントを使用できないようにセットアップできます。 この場合、WebSphere MQ に特別なドメイン・ユーザー・アカウントを指定する必要があります。 この場合に当てはまるかどうかわからない場合は、ドメイン管理者に問い合わせてください。
3. 特別なドメイン・ユーザー・アカウントが必要な 場合は、12 ページの『Windows アカウントの構成』ページをドメイン管理者に送信し、そこに記載されている特別なアカウントのうちの 1 つを要求してください。
4. アカウントの詳細を「WebSphere MQ 準備ウィザード」に入力します。 このウィザードは、インストールの最後に自動的に実行されます。 また、このウィザードは、いつでも「スタート」メニューから実行することもできます。

タスクの結果

特別なドメイン・ユーザー・アカウントが必要な場合に、ともかく作業を続行し、特別なアカウントを使用せずに WebSphere MQ を構成した場合、使用した特定のユーザー・アカウントによっては、WebSphere MQ の多くの部分またはすべての部分が動作しなくなります。

Windows アカウントの構成

始める前に

注 : WebSphere MQ のインストールまたは構成を行っており、使用する特別なアカウントをドメイン管理者に割り当ててもらう必要がある場合は、次のようにして、このページ全体を管理者に送信してください。

- このページを右クリックし、「**すべて選択**」をクリックします。
- もう一度右クリックし、「**コピー**」をクリックします。
- ご使用の E メール・アプリケーションでメールの本文に**貼り付け**ます。

このタスクについて

WebSphere MQ には、 WebSphere MQ にアクセスしようとするすべてのユーザー・アカウントが許可されているかどうかを検査する、Windows サービスとして実行されるコンポーネントがあります。 検査の一部として、このサービスは、アカウントがどのグループのメンバーであるかを照会する必要があります。 サービス自体は、インストール時に WebSphere MQ によって作成されたローカル・ユーザー・アカウントの下で実行されます。

ネットワーク上のドメイン・コントローラーで Windows 2000、 Windows 2003、または それ以降をご使用の場合、ローカル・ユーザー・アカウントがそのドメイン・ユーザー・アカウントのグループ・メンバーを照会する権限を持たないように設定できます。この場合 WebSphere MQ は検査を完了することができないため、アクセスが失敗します。 この状態に対処するには、次のようにします。

- ネットワーク上の各 WebSphere MQ のインストールを、必要な権限を (作成方法については手順を参照) 持つドメイン・ユーザー・アカウントの下でサービスを実行するように構成する必要があります。
- **注 :** インストーラーが続行され、特別なアカウントを使用せずに WebSphere MQ を構成した場合、使用された特定のユーザー・アカウントによっては、WebSphere MQ の多くまたはすべての部分が動作しません。その例を以下に示します。
  - Windows 2000 または Windows 2003 以降で実行されているキュー・マネージャーへの WebSphere MQ 接続は、他のコンピューター上のドメイン・アカウントでは失敗する可能性があります。
  - 典型的なエラーには、 `AMQ8066: Local mqm group not found` および `AMQ8079: Access was denied when attempting to retrieve group membership information for user 'abc@xyz'`があります。

この後に続く詳細な説明に従うと、ドメイン管理者は以下を行うことができます。

1. グローバルまたは汎用ドメイン・グループを作成し、このグループのメンバーに、 任意のアカウントのグループ・メンバーを照会できる権限を与える。
2. 1 つ以上のユーザー・アカウントを作成し、グループに追加する。
3. 各ドメインごとにステップ 2 からステップ 4 までを繰り返す。
4. これらのアカウントを使用して、WebSphere MQ の各インストールを構成します。
5. パスワードの有効期間を設定します。

以下はドメイン管理者のための情報です。 WebSphere MQ のインストールを必要とするユーザー名を含むドメインごとにステップ 2 から 4 までを繰り返し、各ドメインに WebSphere MQ のアカウントを作成します。

1. WebSphere MQ が認識する特殊名を持つドメイン・グループを作成し、このグループのメンバーに、任意のアカウントのグループ・メンバーシップを照会する権限を付与します。

   Windows 2000 サーバー

   a. ドメイン管理者権限をもったアカウントで、ドメイン・コントローラーにログオンします。
   b.「スタート」メニューで「Active Directory ユーザーとコンピュータ」を開きます。
   c. 左側のナビゲーション・ペインでドメイン名を探し、 それを右クリックして「**New Group (新規グループ)**」を選択します。
   d. `Domain mqm` と入力します (WebSphere MQ によって認識および使用されるため、正確にこれと同じストリングを使用する)。
   e.「**Group scope (グループ有効範囲)**」で、「**Global (グローバル)**」または「**Universal (汎用)**」のいずれかを選択します。
   f.「**Group type (グループ タイプ)**」で「**Security (セキュリティ)**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
   g. 左側のナビゲーション・ペインでドメイン名を探し、これを右クリックして「**Delegate Control (制御を委任する)**」を選択してから、「**Next (次へ)**」をクリックします。
   h.「**Selected Groups (選択したグループ)**」および「**Users (ユーザー)**」で「**Add (追加)**」を押し、「**Domain mqm**」 を選択してから「**Add (追加)**」をクリックします。 「**OK**」をクリックします。

i. 「**Domain mqm**」 を選択して、「**次へ**」をクリックします。

j. 「**Create a custom task to delegate (委任するカスタム タスクを作成)**」を 選択し、「**Next (次へ)**」をクリックします。

k. 「**フォルダー内の次のオブジェクトのみ**」を選択し、アルファベット順のリストで「**ユーザー・オブジェクト**」にチェック・マークを付けます。 「**次へ**」をクリックします。

l. 「**Property-specific (プロパティ固有)**」にチェック・マークを付け、 リスト (2 番目の単語のアルファベット順になっている) から以下のオプションを選択します。

- 「**Read Group Membership (グループ メンバーシップを読み取る)**」
- 「**Read Group MembershipSAM (グループ MembershipSAM を読み取る)**」

m. 「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。

Windows 2003 サーバー

a. ドメイン管理者権限をもったアカウントで、ドメイン・コントローラーにログオンします。

b. 「**スタート**」メニューから、「**Active Directory Users and Computers (Active Directory ユーザーとコンピュータ)**」を開きます。

c. 左側のナビゲーション・ペインでドメイン名を探し、 それを右クリックして「**New Group (新規グループ)**」を選択します。

d. `Domain mqm` と入力します (WebSphere MQ によって認識および使用されるため、正確にこれと同じストリングを使用する)。

e. 「**Group scope (グループ有効範囲)**」で、「**Global (グローバル)**」または「**Universal (汎用)**」のいずれかを選択します。

f. 「**Group type (グループ タイプ)**」で「**Security (セキュリティ)**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

g. 「**Advanced Features (拡張機能)**」モードで「**Active Directory Users and Computers (Active Directory ユーザーとコンピュータ)**」を表示します。

h. 左側パネルでドメイン名を探し、そのドメイン名を右クリックしてから「**Properties (プロパティ)**」をクリックします。

i. 「**セキュリティ**」タブをクリックします。

j. 「**Advanced (拡張)**」をクリックします。

k. 「**追加**」をクリックし、 `Domain mqm` と入力して 「**OK**」をクリックします。 新しいダイアログが表示されます。

l. 「**Properties (プロパティ)**」タブをクリックします。

m. 「**Apply onto (適用先)**」ボックスで、表示を「**User objects (ユーザー オブジェクト)**」に変更します。

n. 次のオプションの「**allow (許可)**」チェック・ボックスを選択します。

- 「**Read Group Membership (グループ メンバーシップを読み取る)**」
- 「**Read Group MembershipSAM (グループ MembershipSAM を読み取る)**」

o. 「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。

Windows 2008 Server

a. ドメイン管理者権限をもったアカウントで、ドメイン・コントローラーにログオンします。

b. 「**サーバーマネージャー**」 > 「**役割**」 > **Active Directory** 「**ドメインサービス**」 を開きます。

c. 左側のナビゲーション・ペインでドメイン名を探し、 それを右クリックして「**New Group (新規グループ)**」を選択します。

d. `Domain mqm` と入力します (WebSphere MQ によって認識および使用されるため、正確にこれと同じストリングを使用する)。

e. 「**Group scope (グループ有効範囲)**」で、「**Global (グローバル)**」または「**Universal (汎用)**」のいずれかを選択します。

f.「**Group type (グループ タイプ)**」で「**Security (セキュリティ)**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

g. サーバー・マネージャーのアクション・バーで、「**表示**」 > 「**高度な機能**」をクリックします

h. 左側パネルでドメイン名を探し、そのドメイン名を右クリックしてから「**Properties (プロパティ)**」をクリックします。

i.「**セキュリティー**」 > 「**拡張**」 > 「**追加 ...**」をクリックします。 `Domain mqm` と入力し、「**名前の確認**」 > 「**OK**」をクリックします。

j.「**プロパティー**」をクリックします。 「**適用先**」リストの下部にある「**下位のユーザー オブジェクト**」を選択します。

k.「**許可**」 リストから、 「**グループ・メンバーシップの読み取り**」 および 「**読み取り**」 **groupMembershipSAM**」 「**許可**」 チェック・ボックスを選択します。 **OK** > 「**適用**」 > 「**OK**」 > 「**OK**」 をクリックして、各ウィンドウを閉じます。

2. 次のようにして、1 つ以上のアカウントを作成してグループに追加します。

   a. **Active Directory** 「**ユーザーとコンピューター**」で、任意の名前のユーザー・アカウントを作成し、それをグループ `Domain mqm` に追加します。

   b. 作成するすべてのアカウントについてこれを繰り返します。

3. WebSphere MQ のインストールを必要とするユーザー名を含むドメインごとにステップ 1 および 2 を繰り返し、各ドメインに WebSphere MQ のアカウントを作成します。

4. これらのアカウントを使用して、WebSphere MQ の各インストールを構成します。

   a. WebSphere MQ の各インストールに同じドメイン・ユーザー・アカウント (前のステップ 1 で作成したもの) を使用するか、それぞれに別個のアカウントを作成して、それぞれを `Domain mqm` グループに追加します。

   b. アカウントを作成したら、WebSphere MQ のインストールを構成する各ユーザーにアカウントを割り当てます。 このユーザーは、「WebSphere MQ の準備ウィザード」にアカウントの詳細 (ドメイン名、ユーザー名、およびパスワード) を入力する必要があります。 構成者には、それぞれのインストール・ユーザー ID と同じドメインに存在するアカウントを与えてください。

   c. ドメイン上のコンピューターに WebSphere MQ をインストールすると、WebSphere MQ インストール・プログラムは LAN 上に `Domain mqm` グループがあることを検出し、そのグループをローカル「mqm」グループに自動的に追加します。 (ローカル「mqm」グループはインストール時に作成されます。その中のすべてのユーザー・アカウントが WebSphere MQ を使用する権限を持っています)。 したがって、`Domain mqm` グループのすべてのメンバーが、このコンピューター上の WebSphere MQ を使用する権限を持ちます。

   d. ただし、各インストールごとにドメイン・ユーザー・アカウント (上のステップ 1 で作成) を指定して、照会のときに WebSphere MQ がそのアカウントを使用するように構成しなければなりません。 インストールの最後に自動的に実行される「WebSphere MQ の準備ウィザード」にアカウントの詳細を入力する必要があります (ウィザードは、好きなときに「スタート」メニューから実行することもできます)。

   e. そのアカウントには、「サービスとして実行可能」なユーザー権限が必要です。 **開始** > 「**実行 ...**」をクリックします。 `secpol.msc` と入力します。 「**サービスとしてログオン**」 > 「**ユーザーまたはグループの追加 ...**」をダブルクリックします。 ドメイン・ユーザーを追加します。 **名前の確認** > **OK** > 「**OK**」をクリックします。

5. 次のようにして、パスワードの有効期限を設定します。

   - すべての WebSphere MQ ユーザーに 1 つのアカウントだけを使用する場合は、アカウントのパスワードの有効期限が切れることがないようにしてください。そうでないと、パスワードの有効期限が切れると同時に、WebSphere MQ のすべてのインスタンスが動作を停止します。
   - WebSphere MQ の各ユーザーに独自のユーザー・アカウントを与えると、作成および管理するユーザー・アカウントの数が多くなります。ただし、パスワードの有効期限が切れた時に作業を停止する WebSphere MQ のインスタンスは 1 つだけになります。

パスワードの有効期限が切れるように設定している場合は、その有効期限が切れるたびに、WebSphere MQ からメッセージが表示されることをユーザーに警告してください。メッセージは、パスワードの有効期限が切れたことを警告し、そのリセット方法を説明します。

詳しくは、「システム管理ガイド」を参照してください。

WebSphere MQ 準備ウィザードの完了

「**完了**」をクリックすると、このパネルで選択したすべてのプログラムが起動されます。 すぐに実行するプログラムを選択してください。 必ずしもすべてのプログラムを選択する必要はありませんが、この機会にリリース情報を参照および印刷することをお勧めします。

選択肢は以下のとおりです。

WebSphere MQ エクスプローラー
ご使用のコンピューター上で WebSphere MQ を管理するためのメイン・インターフェースです。 これは、IBM Eclipse SDK のパースペクティブです。

リリース情報
リリース情報ファイルには、このバージョンの WebSphere MQ に関するインストール情報および最新情報が含まれています。 重要な情報は、ご使用のコンピューター上または公開文書では入手できない場合があるため、必要に応じてこのファイルを参照および印刷してください。

デフォルト構成ウィザード

特殊なクラスター構成を作成または移行します。

デフォルト構成ウィザードは、ポストカードのアプリケーションおよび IBM WebSphere MQ エクスプローラーを使用して、 IBM WebSphere MQ を素早く簡単に探索することができる特殊なセットアップ・アプリケーションです。

デフォルト構成は、「IBM WebSphere MQ エクスプローラーにようこそ」の「**コンテンツ・ビュー**」ページを使用して作成できます。 このページを使用すると、後でクラスター構成の表示または変更ができます。

デフォルト構成の詳細については、このオプションのヘルプを参照してください。

デフォルト構成

WebSphere MQ のインストール後にこのパネルを使用して、デフォルト構成の作成、表示、または変更を行います。 デフォルト構成は、ポストカードのアプリケーションおよび WebSphere MQ エクスプローラーを使用して、素早く、かつ簡単に WebSphere MQ を探索できるようにする特殊なセットアップです。

このパネル上のすべてのフィールドは表示専用であり、直接変更することはできないことに注意してください。 変更するには、いずれかのボタンをクリックしてください。

リモート管理
「**許可**」および「**禁止**」ボタンは、 即時に有効になり、示されたキュー・マネージャーを設定します。

デフォルト・クラスター・メンバーシップ
構成がクラスターに結合される場合は、クラスター名が「**クラスター名**」に表示され、「**リポジトリーの位置**」は「このコンピューター」または「リモート・コンピューター」のいずれかです。リポジトリーがリモート・コンピューター上にある場合は、「**リポジトリー・コンピューター名**」または「**リポジトリー IP アドレス**」によって、どのコンピューター上にあるかが示されます。

「**名前**」が「なし」と表示される場合、構成はクラスターに結合されていません。 デフォルト・クラスターを結合するには、適切な時点で「**デフォルト・クラスターの結合**」をクリックして「デフォルト構成ウィザード」を開始します。

デフォルト構成のセットアップ
デフォルト構成がまだセットアップされていない場合は、このボタンをクリックして ウィザードを開始します。 ウィザードのパネルについては以下で説明されています。

- 17 ページの『デフォルト・キュー・マネージャー構成』
- 17 ページの『デフォルト・クラスターの結合』
- 18 ページの『ローカル・リポジトリー』

- 18 ページの『リモート・リポジトリー』

注 :

1. キュー・マネージャーを作成した後は、デフォルト構成を作成することはできません。 キュー・マネージャーの作成後にデフォルト構成を作成する場合は、まず、既存のキュー・マネージャーをすべて削除してください。
2. デフォルト構成を作成しない場合は、独自のキュー・マネージャーを作成して、それをポストカードのアプリケーションから使用できます。
3. デフォルト構成クラスターは 1 つのリポジトリーしか持たず、 さらに 1 つのキュー・マネージャーしか持たない場合もあるため、一般的なクラスターではありません。

デフォルト・キュー・マネージャー構成

注 : デフォルトのキュー・マネージャーの名前はご使用のコンピューター名に基づきます。 このため、WebSphere MQ エクスプローラーから他のコンピューター上のキュー・マネージャーをリモート管理するときに、この名前を簡単に見つけることができます。

リモート管理

「**許可**」をチェックして、リモートの WebSphere MQ コンピューター上のユーザーが、このコンピューター上のこのキュー・マネージャーを管理できるようにします。 この設定は、このキュー・マネージャーが特定のクラスターに結合されているかどうかには関係がありません。しかし、通常は、クラスタリングによって得られる単一ポイント管理の利点を全面的に活用できるように、リモート管理を使用可能にします。

デフォルト・クラスターの結合

注 : デフォルト・クラスターの名前は `DEFAULT_CLUSTER` と設定されます。 これによって、同じネットワークに接続するコンピューター上のすべての WebSphere MQ インストールが、デフォルト構成を使用して、同じクラスターに結合し、お互いへのメッセージの送信を即時に開始できます。

キュー・マネージャーを同じクラスターに結合するには、 各キュー・マネージャーが同じクラスター名を指定する必要があります。 また、いずれかのコンピューターをクラスター・リポジトリーとして定義し、 そのリポジトリーを使用するように他のすべてのコンピューターを設定する必要もあります。 次のパネル 17 ページの『デフォルト・クラスターの結合』 でこの設定を行います。

デフォルト・クラスターの結合

デフォルト構成クラスターを作成するには、クラスター内のキュー・マネージャーの 1 つがクラスター・リポジトリーを持ち、その他のすべてのキュー・マネージャーがそれを指し示すようにする必要があります (これは一般的なクラスターとは少し異なります)。

表 *2.*

IF...	**必要な処理**
このクラスターの別のコンピューターにまだ IBM WebSphere MQ をインストールしていない場合。	「**はい**」を選択して、これをリポジトリーにします。 **注 :** このコンピューターが DHCP (IP アドレスの動的割り振り) を使用する場合、 通常、リポジトリーをこのコンピューターに置くことはできません (IP アドレスが変わると、 その他のキュー・マネージャーが (このコンピューター上にある場合でも) コンピューターを検出できなくなるためです)。 ただし、これがクラスター内の唯一のキュー・マネージャーである場合は、リポジトリーにしてもかまいません。

表 2. (続き)	
IF...	**必要な処理**
IBM WebSphere MQ が既に別のコンピューターにインストールされており、そのコンピューター上のキュー・マネージャーがクラスターのリポジトリーとして定義されている場合。	「**いいえ**」を選択して、次のパネル (「リモート・リポジトリー」) で、リポジトリー・キュー・マネージャーを持つコンピューターの名前を指定します。

ローカル・リポジトリー

コンピューター名を書き留めます。

このネットワーク上の別のコンピューターに WebSphere MQ をインストールする場合は、このコンピューター名をリモート・ロケーションとして入力することによって、デフォルト構成をインストールし、**リモート・リポジトリー**を指定できます。これにより、複数のコンピューターが同一のクラスターに結合されます。

WebSphere MQ が既にインストールされているが、デフォルト構成がインストールされていないネットワーク上の別のコンピューターで、デフォルト構成ウィザードを使用してインストールします。

リモート・リポジトリー

前のパネル (デフォルト・クラスターの結合) では、 このコンピューターのキュー・マネージャーをリポジトリーにしないことを選択しました。 そのため、ここで、どのコンピューターが、このクラスターのリポジトリーとなる キュー・マネージャーを持つのかを定義する必要があります。 リモート・コンピューターの TCP/IP コンピューター名 (または IP アドレス) を入力します。

例えば以下のような場合は、リモート・コンピューターをリポジトリーにする準備ができていません。

- WebSphere MQ がインストールされているが、まだ構成されていない。または、
- WebSphere MQ がまだインストールされていない。

この時点では、まだそのコンピューターをリモート・リポジトリーとして定義できます。 ただし、クラスターを使用する前に、「デフォルト構成」ウィザードを使用して、そのマシンを適切に再構成する必要があります。

IBM WebSphere MQ for Windows のアンインストールまたは変更

現在のインストールをアンインストールまたは変更するには、IBM WebSphere MQ インストーラーを使用します。

このタスクについて

IBM WebSphere MQ をアンインストールするには、次のようにします。

手順

1. 「**スタート**」 > 「**設定**」 > 「**コントロールパネル**」 > 「**プログラムの追加と削除**」を選択して、ウィザードを開始します。

   リストから 「**IBM WebSphere MQ**」 を選択します。
2. 「**変更**」または「**削除**」を選択します。
   - 「**変更**」 をクリックして IBM WebSphere MQ インストーラーを開き、ステップ 3 に進みます。
   - 「**削除**」をクリックし、これ以上の対話を行わず、すぐに IBM WebSphere MQ を除去します (キュー・マネージャーは除去されません)。
3. IBM WebSphere MQ インストーラーで、次のいずれかを選択します。
   - 「**変更**」 では、IBM WebSphere MQ 機能のインストールまたはアンインストールを選択できます。
   - 「**除去**」では、すべての IBM WebSphere MQ プログラム・ファイルが除去されます。 すべてのキュー・マネージャーおよびそれらのオブジェクトの除去も選択できます。

4. 選択を行うと、インストールの要約が表示されます。
   選択した機能のリストが正しいことを確認してから、インストールまたはアンインストールを確定してください。

タスクの結果

IBM WebSphere MQ がアンインストールまたは変更されます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて 作成したものです。 IBM は、本書に記載の製品、サービス、または機能を日本においては提供していない場合があります。 日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。 本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。 これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。 ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの 評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。 本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

- IBM ライセンス交付のディレクター
- IBM Corporation
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 法務・知的財産
- U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing
Legal and Intellectual Property Law
〒 103-8510
103-8510
東京 103-8510、日本

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、 強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。 本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、 改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものでは ありません。 それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部では ありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

- IBM 英国研究所、
- Mail Point 151,

- Hursley Park,
- Winchester,
- Hampshire,
- イングランド
- SO21 2JN.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用すること ができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと 同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、 もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。 したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。 より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、 あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。 これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在して いるとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。 お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。 従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性が あることをほのめかしたり、保証することはできません。 お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠した アプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、 いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、 配布することができます。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

- IBM
- AIX®
- CICS®
- DB2®
- IMS
- MQ
- MQSeries
- MVS/ESA
- VSE/ESA
- OS/390®
- OS/400®
- FFST
- 第 1 障害サポート・テクノロジー
- WebSphere
- z/OS®

- i5/OS

Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

:NONE.

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。 日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。 本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。 これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。 ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの 評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。 本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing
Legal and Intellectual Property Law
〒 103-8510
103-8510
東京 103-8510、日本

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION は、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。 "" 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が 禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。 本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものでは ありません。 それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部では ありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

© Copyright IBM Corp. 2007 年, 2024

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用すること ができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他の ライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、 IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で 決定されたものです。 そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。 さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。 実際の結果は、異なる可能性があります。 お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、 もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。 したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、 予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。 より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、 あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。 これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在して いるとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。 お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。 従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報 (提供されている場合) は、このプログラムで使用するアプリケーション・ソフトウェアの作成を支援することを目的としています。

本書には、プログラムを作成するユーザーが IBM WebSphere MQ のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースに関する情報が記載されています。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。 診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

重要 : この診断、修正、およびチューニング情報は、変更される可能性があるため、プログラミング・インターフェースとして使用しないでください。

商標

IBM、 IBM ロゴ、 ibm.com®は、世界の多くの国で登録された IBM Corporation の商標です。 現時点での IBM の商標リストについては、 "Copyright and trademark information"www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。 他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

この製品には、 Eclipse Project (http://www.eclipse.org/) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

部品番号:

(1P) P/N: